

INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL
41
2015

明日を担う医療従事者の実践的な教育・育成 — 大学病院の使命を果たすために —

DOCTOR'S VOICE 01 地域と共に、魅力ある病院をつくりたい

DOCTOR'S VOICE 02 安定した医療が提供でき、高度医療にも繋がるシステム

DOCTOR'S VOICE 03 患者さんの立場に立ち、自分が受けたいと思える医療を提供

DOCTOR'S VOICE 04 超高齢社会を支える人材の育成に取り組む



新任教授紹介

地域と共に、魅力ある病院をつくりたい

地域医療再生学講座教授、人工関節センター副センター長 間島直彦

「地域医療再生学講座」は愛媛県の地域医療再生計画のもと、深刻な医師不足を抱える宇摩地区の医療再生を図るため、2010年より愛媛大学医学部に開設されました。昨年から整形外科医師として、救急医療、地域医療、関節外科診療にあたっています。

現在、宇摩地区で高齢者骨脆弱性骨折を減らすことを目標に、骨粗しょう症やロコモティブシンドロームという運動器疾患に関する啓発活動に取り組んでいます。結果が出るのは数年後のことになるとは思いますが、HITO病院、四国中央病院、宇摩医師会や四国中央市の協力を得て進めています。

一方、宇摩地区の医療を支える人材育成という面では、地域医療を志す学生や若手医師の受け皿を整備することが必要です。特に地域で専門的な医療が学べる体制を形成するためには、大学病院との連携が重要になります。愛媛大学医学部附属病院人工関節センターと連携し、宇摩地区において人工関節手術の拠点（サテライトセンター）を構築していきます。そして、地域の外科医師不足の解消につなげるためにも、手術に興味を持ってもらい高い手術スキルを習得できる環境を提供し、宇摩地区から全国で活躍できる整形外科医、関節外科医を育成することを目指します。



PROFILE

ましまなおひこ◎1987年愛媛大学医学部卒業。1996年から愛媛大学医学部整形外科、2015年4月から現職。専門は外傷学、股関節外科、四肢の脚延長、変形矯正。趣味は家庭菜園。

新任教授紹介

安定した医療が提供でき、高度医療にも繋がるシステム

地域小児・周産期学講座教授 檜垣高史

小児医療、特に小児救急医療や周産期医療の充実は重要な課題であり、それぞれの地域の特性と課題を明らかにし、「地域医療と高度医療」、「プライマリケアと集約化」の連携を視野に入れた診療体系を整備することが急務です。この講座では、東予地区の周産期医療、中予地区の小児救急医療および南予地区の小児医療を主に担当し、愛媛県全体の小児医療および周産期医療の充実、発展をめざしています。

小児循環器の分野では、胎児から新生児、乳児、小児そして成人における先天性心疾患の診療体制の確立・発展をめざしていきます。心臓を止めずに、より低侵襲な治療が可能になるカテーテル治療を先進的に行っていきます。モンゴルでのハートセービングプロジェクトは、そのなかのひとつの取り組みであり、診療支援のみならず、医療の原点を考える、若手の教育の場でもあり、国際貢献を通して得た経験をもとに幅広い医療を還元できるように、今後も継続していきます。

子どもの未来を真剣に考える多くの仲間たちと連携しながら、小児・周産期医療の重要性、必要性、魅力を伝え、診療・教育・研究を通して、長期的に安定した小児・周産期医療が提供できるようなシステムを開発し、本講座の起動が、愛媛県全体の小児医療および周産期医療、地域医療活性化のブレイクスルーになるように推進していきます。



PROFILE

ひがきたかし◎1988年愛媛大学医学部卒業。2015年4月から現職。専門は小児循環器。2001年からモンゴルにて心臓病の子どもを救おうと立ち上げた「ハートセービングプロジェクト」での活動を行っており、2012年にはモンゴル国政府から「北極星勲章」を受賞。趣味は中学生から続けている卓球。熱中できるその瞬間が好き。

新任教授紹介

患者さんの立場に立ち、自分が受けたいと思える医療を提供

麻酔・周術期学講座教授 萬家俊博

当院は県下唯一の大学病院として、日々多くの患者さんの手術を行っています。その中で麻酔科は、手術を必要とする患者さんに必要なタイミングで、安全に麻酔を実施することが求められています。麻酔ができないから手術ができないということがないよう、チームとしてマンパワーの充実と手術医療の質の向上に取り組む必要があります。更に手術時の麻酔だけではなく、手術前後のケアを「周術期管理チーム」として対応できるように考えています。手術前には麻酔に関する詳しい説明を行い、患者さんの不安や動搖を取り除き、手術後は痛みへの有効な対策ができる仕組みを作りたいと考えています。このチーム構想と仕組み作りは麻酔科だけで取り組むことは困難で、看護師など多職種と協力しながら進めたいと思います。

また私は「痛みセンター」のセンター長も兼任しています。痛みセンターでは、麻酔科や整形外科、神経内科、精神科の医師や看護師、臨床心理士など、複数の診療科と職種が集まり、一人の患者さんの痛みに複眼的にアプローチし、最適の治療を目指しています。定期的なカンファレンス（会議）を行い、患者さんの痛みを緩和させるための方法を検討しています。

患者さんにとって、手術は一生に一度あるかないかの出来事です。自分の身内を診る気持ちで、一人一人丁寧な医療をご提供できるように努めています。



PROFILE

よろずやとしひろ ◎1984年愛媛大学医学部医学科卒業。附属病院で麻酔科研修、県立今治病院、附属病院、県立中央病院を経て、1997年より当院へ。2015年4月から現職。専門は心臓麻酔。高機能シミュレータを駆使した実践的医学教育に熱血を注ぐ。趣味は読書。宮本輝の小説を好み、書庫には河合隼雄とユングが並ぶ。

新任教授紹介

超高齢社会を支える人材の育成に取り組む

老年・神経・総合診療内科学教授 大八木保政

私の専門の神経内科は、神経難病だけでなく、認知症、脳卒中、てんかんなど数百万人に及ぶコモンな疾患も担当しています。高齢化と共に、認知症やパーキンソン病などの神経変性疾患が増加しており、今後さらに需要が高まる診療分野です。超高齢社会では、病院完結型医療だけでなく、医療・福祉が連携して、なるべく長く自宅生活ができるように支援する必要があります。そこで、私たち神経内科医の役割は、脳卒中などの救急医療から、慢性期の症状コントロール、終末期医療に至るまで、切れ目なく医療をつないでいくことにあります。

一方、神経内科は中枢神経から末梢神経・筋肉に至るまで多様な疾患に対応するため、診断・治療の専門性が非常に高い分野です。必要性が高いにもかかわらず、全国的に入局者が減少傾向にあり、特に四国地方では専門医の絶対数が少ない診療科です。また、2017年度から開始される新専門医制度では、総合内科専門医を取得する上で神経内科の研修も必須となります。研修医の皆さんのがんの神経内科研修の機会を増やすとともに、医学生を対象とするセミナーや勉強会も開催したいと思います。

研究面では、私自身の主要テーマである神経疾患の病態解明や治療薬探索、当講座の伝統である遺伝子研究を柱として、「夢を持てる」神経内科学教室を目標としています。神経内科の臨床や脳科学研究に興味をお持ちの方は、いつでも歓迎します。



PROFILE

おおやぎやすまさ ◎1985年九州大学医学部卒業。国立精神・神経センター、米国ケースウエスタンリザーブ大学及びメイヨークリニックフロリダ、九大神経内科准教授、同大神経治療学寄付講座教授等を経て2015年5月から当院へ。大学時代は九大航空部（グライダー）に所属。四国は初めてで、新しい発見が楽しみ。

愛媛大学医学部附属病院 トピックス

お気軽にご相談ください

緩和ケア研修会を実施



平成27年7月11日(土)及び12日(日)に、愛媛大学医学部総合教育棟2F基礎第1講義室において、愛媛大学医学部附属病院主催の「愛媛県緩和ケア研修会」を開催しました。

厚生労働省「がん対策推進基本計画」(平成19年6月15日閣議決定)では、がん診療に従事

するすべての医師が緩和ケアに関する基本的な知識、技術を身につけることを重点目標としており、さらに「がん診療連携拠点病院の整備について」では、がん診療連携拠点病院の指定要件として、プログラムに準拠した「緩和ケア研修会」を定期的に実施することが明示されています。当院においても平成21年度から開催しており、今回で7回目の

開催になります。今年度は院内だけでなく院外から、医師や医療従事者(看護師・薬剤師等)等総勢38名が参加し、緩和ケアに関する基本的な知識や技術を学びました。当院ではこれからも引き続き緩和ケア研修会を実施し、愛媛県におけるがん診療体制の向上に努めています。

総務課企画・広報チーム ☎089-960-5943

白衣授与式を実施



この授与式は、病棟実習の資格を得た108人の医学生が、医師を志す者としての自覚を再確認するとともに、これからstudent doctorとして病棟実習に臨み、実習を通じてチーム医療の重要性を学びながら将来の医療を担う人材となることを期待して、平成23年度から実施しています。

学務課 ☎089-960-5170

開会にあたり、満田憲昭医学部長から「これまで座学で学んだことを実習の中で活かし、医師としての技術を身に付けてください」と激励の言葉がありました。これに対し、学生代表者から、真摯に実習に取り組みたいとの決意が述べされました。続いて、10人の教授が、白衣に袖を通した学生一人ひとりと固い握手を交わし、激励を行いました。

また、短期交流学生として、韓国のカンウォン大学から来日している2人の医学生も参加し、記念品として白衣が授与されました。最後に、三浦裕正附属病院長から「student doctorとしての自覚と誇りを胸に実習に臨み、患者さんの目線に立った医師になることを期待しています」と、医師の卵たちにお祝いの言葉を贈り、全員で記念撮影を行いました。

第11回 地域病院 バスツアーを実施



地域医療支援センターでは、将来地域医療を担う医師を目指す医学学生を率いて地域病院を訪問し、見学や意見交換を行うことで、早い段階から地域医療の実情に触れ、実感する機会を設けています。今回は、JCHO宇和島病院、鬼北町立北宇和病院を訪問しました。医学科3・4年生22人と短期交流学生として本医学部で学んでいるカンウォン大学(韓国)の2人が参加しました。参加者は、地域の医療・介護・福祉の包括的な連携状況の説明や院内施設の案内等を興味深く見聞きしていました。

地域医療支援センター

☎089-960-5990

編集後記

夏本番も過ぎ、涼しさを感じつつある時期となっていました。

本号では4月から新教授として活躍している間島先生、檜垣先生、萬家先生、大八木先生の決意を始め、白衣授与式、緩和ケア研修会と教育に重点を置いた号にしました。

また、表紙では学生がシミュレータを使用し、実習している様子です。使用している機器は全国でも数少ない超精密血管手術シミュレータ【EVE】です。この機器では、人体の血液循環を再現でき、血圧、血流量、血液温度の調節が出来ます。当院では、このような最新鋭のシミュレータ機器を使用し、全国トップクラスの医療従事者の教育・トレーニングを行っています。

広報委員会委員長 高田清式

◎表紙

超精密血管手術シミュレータ【EVE】での実習



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 ☎089-964-5111(代)

ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>